

MEFO(Music Education Festival) in Osaka 2020

WakuWakuピアノフェスティバル開催!

東京オリンピックが開催され、明るく希望に満ちた一年になるはずだった2020年。コロナウィルスの感染拡大とともに、共に集い、学び、そして喜びを分かち合う音楽教育の姿が一変してしまうこととなりました。日本ギロック協会の30周年記念パーティーがやむをえず中止になってしまおう中で、何か希望の光につながる楽しいイベントができないかと考えたのが日本ギロック協会、関西ピアノ芸術連盟共催という形でのMEFO2020WakuWakuピアノフェスティバルという投稿動画を使ったオンラインイベントでした。

従来になかったことをする、という事は、ある意味ソフト面では自由に冒険をすること(例えば課題曲はあえてコンクールに選ばれるような曲は選ばないとか、最後には参加者全員で楽しめる投稿動画コンサートを開催するなど)が出来ましたが、ハード面ではお手上げ状態でコーラスカンパニーさんには大変お世話になりました。バーチャルコンサートにお越しいただき和やかなバーチャルの演奏会場を作り出してくださったゲストの皆様、また会員の皆さんによる審査のご協力、あたたかい励ましの言葉の数々、そして、このピアノフェスティバルに参加してくださった142名のピアニストの皆さんにも本当に感謝いたします。ありがとうございました。

(記/松原佳弥)



「ホントにやっちゃうんだあ…」と 慄く、すさまじいパワー

杉野みゆきさん、松原佳弥さんから連絡がある時は要注意だ。これは昨年大々的に開催された「Music Education Festival in Osaka 2019」の時に肝に銘じたことだった。ああ、それなのにそれなのに。今回もまた僕としたことが、無限ループに巻き込まれてしまった。

何よりまあ、悔しいのはやろうとしている企画がなんともいいもので、どこにも反対する隙間がないことだ。これは断ろうと思っている人間にとっては実にややこしい。しかも今は非常時ときだ。

本当に悲しいことに、コロナ禍は僕たちから平穏な日常を奪い、これまでの常識を奪った。それはピアノ教育の世界においても同じだったはずだ。本来、音楽活動の多くは「密」でいることが信条である。「密」でいるからこそ楽しい。そんな僕たちにとって「密はNG」という審判は、その存在意義までも問い直すことを強いた。もう誰もが行き場を失いかけていたはずだ。そんな時にこのWakuWakuピアノフェスティバルの芽が生まれた。

いつ、だれがこの企画の発端を担ったのか、僕は知らない。いや、誰が考

えたっていい。みんながたとえオンラインであっても「密」である感情を共有することができたのだから。

正直言ってバーチャルコンサートでの参加者の方たちのパフォーマンスを視聴しながら、この数か月間忘れかけていた「生の音楽」に触れる、痺れるような感覚が甦ってくるような気がした。ちょっと「参ったな」という感じだ。やっぱり僕は屈したのだ(笑)。

コーラス・カンパニーの服部さんにもお世話になった。彼とのつき合いは長く、服部さんは僕のことを「暗躍している奴」だとあちこちで言いふらしている悪友だが、今回の仕事ぶりには驚嘆した。どんなに感謝してもしきれない。もしかしてMEFO2021がまたあるのだろうか?またあのお二人がにこにこしてやってくるのだろうか。僕はそれが気になってしかたない。

(記/MEFO2020アドバイザー 坂元勇仁)



コンサートを終えてゲストの皆さんとはいチーズ!!

左上から

春畑セロリ、コーラスカンパニー服部、安倍美穂
杉野みゆき、坂元勇仁、小原 孝
安田裕子、松原佳弥、梶原香織

(敬称略)

審査にご協力くださった皆様

福井尚美、後藤美香、池田奈生子、
野村啓子、野口左起子、鍵屋知佳、
菊田恭子、今野万実、松田 昌

(敬称略 順不同)



「大人のピアノパーティ」開催 【WOP L I M支部】



11月3日、レストランでランチをいただきながらの『大人のピアノパーティー』を開催しました。参加者は8名です。ギロックファミリーの曲や、今流行りの「鬼滅の刃」、クラシックの名曲など、一人一人個性豊かに演奏しました。

当初は6月開催の予定が、コロナのために延期になりました。気候もお天気も丁度良く、とてもお洒落で素敵な2時間を過ごす事ができ、皆さん早くも来年の開催を楽しみにされています。
(藤井ゆかり)



池田奈生子さんをお迎えして 【柏支部】

10月12日に池田奈生子さんをお迎えして、新刊『Day at the Fair』セミナーを開催しました。コロナも収束していない時期だったので、初の試みで対面と、Facebookのライブ配信の二本立にしてみました。ライブ配信はその場で視聴もでき、後で録画も観れるので復習にもなり、とてもよいことがわかりました。

新刊のほかに、「Bouquet of Color」(「虹色・花色パレット」)「Composer's Choice」も、作曲や編曲をするときのポイントやイメージをコード分析を交えながらお話ししてくださいました。



「Day at the Fair」は参加者と奈生子さんと密をさけて背中合わせで、CASIOのセルヴィアードグランドハイブリッドとピアノの二台で演奏しました。一緒に弾けるのって楽しい!と思えるひと時でした。

＜セミナー参加者の感想＞

- ・作曲者ご本人の演奏を生で聴けて、さらに連弾までさせていただけて本当に夢のような時間でした。素敵な音楽の秘密はコード進行、テンション、ベースラインにあったのですね。作曲のお話を次回もまたお聴きしたいです。
- ・奈生子さんから教えていただいた基本コードのレシピ(?) 7th、11thなどを使って進行していくと、「奈生子ワールド」の音域と優しい音が作られているのがわかりました。



新刊の「Day at the Fair」は子ども同士で演奏できる素敵な曲集なのでコロナが終息したら演奏してもらおうと思っています。
(記/永澤昌江)



9ヶ月ぶりの再会! 【福岡支部】

福岡支部は、3ヶ月ごとに大宰府のKAWAIに集まっています。前回リアルで集まったのは1月。それ以降は、一度zoomミーティング。今回は9ヶ月ぶりに8名全員が揃いました!マスク越しですが、皆さんの笑顔が感じられて、何よりも、一緒に連弾したりお互いの演奏を聴けるのは、感動でした。

福岡では毎回、3つの柱で勉強会を進めています。

- ①ギロックベスト3より、ソロ演奏とコード分析。ただ弾くだけではなく、タイトルの意味を調べたり、演奏のアイデアを出し合います。
- ②キャサリンロリンのダンスフォーツより連弾。今回は、オカリナにも加わって頂いてアンサンブル。せつない音色が心にしみました。
- ③ひとりずつ5分間発表では、レッスングッズや、おすすめの教材、アプリ、You Tubeなどを自由に紹介します。多喜靖美先生を偲んで、ギロックの「古い農民歌」のピアノと鍵ハモアンサンブルもあり素敵でした。

(記/空美)



Machi pianoを 弾きに行こう!

【長崎支部】

10月から、長崎の中心部のアーケードに長崎初のストリートピアノが設置されましたが、1人で弾くのは、なかなか勇気がいるので、11月の定例会はリモートをやめて「machi pianoを弾きに行こう!」を企画しました。ソロあり、ぶっつけ本番の連弾ありでしたが、屋外ですのでコロナの心配も半減し、知らない方にも拍手を頂けて、楽しく演奏できました。偶然、同じ時間

に弾きに来られたおじ様にも声をかけて、春畑セロリ先生の「いっぽん！チャチャチャ」で初見演奏して、音楽って素晴らしいな～と思える貴重な時間を過ごさせて貰いました。12月はみんなでクリスマスソングを弾きに行く予定です。（記/福田）



ギロックでつながる 仲間との対話 【仙台支部】

11月27日、ようやく定例会を再開することができました。密を避けるためこれまでより広い会場を探し、移動の負担も偏らないように、今後は仙台市北部と南部の2ヶ所を交互で利用することにしました。

9ヶ月ぶりとなった定例会は、これまで同様課題曲についての解釈・工夫・疑問などの話題が続き、2時間後には「以前のような時間が戻ったのだ」と胸がいっぱいでした。

ギロックで繋がる仲間との対話は、気負うことなく穏やかな気持ちになれる場所があることを、改めて感じるこゝととなりました。

そしてやむなく中止したギロックコンサートですが、5月21日開催するためにホール会場を予約しました。今から楽しみです。（記/小野寺朋子）



コロナ対策をしながら活動中 【石川支部】

石川支部ではマスク着用、手指の消毒、換気…等のコロナ対策を施しながら活動しています。

ギロックの「こどものためのアルバム」と平行しながら会員メンバーが購入したアルフレッドのお気に入りデュエット曲を順番に弾き合っています。

輸入楽譜の未知なる曲との新たな出会い、思わずステキな曲がたくさんあることを発見！！ワクワク、楽しい時間です。（記/富田美智子）



札幌とリモートで つながってみませんか？ 【札幌支部】

第三波襲来か！…と言われている北海道。特に札幌はホールや劇場での公演も延期や中止等、生の演奏を聴く機会が無い状態です。引き続きリモート友の会を頑張って続けていますが、各支部さんのお便りを拝見し、他支部との交流や安田先生のご参加等参考にさせて頂き、リモート友の会の継続を考えたいと思っています。各支部の皆さん！良かったら札幌と繋がってみませんか？（記/小川ひとみ）



メンバー同士、 分かち合える時間に感謝 【市川支部】

6月に定例会を再開してから、変わらずゆったりペースで、「ピアノピースコレクション③」の研究を続けています。

楽譜のアナリゼや表現のしかたなど、曲の研究をしながら、ちょっとした指導上の悩みや楽しさを分かち合ったりできる時間を持つことのありがたさに、メンバー一同、改めて感謝しているところです。一日も早く、誰もがのびのびと音楽活動のできる日が戻ってほしいと願っています。

（記/油井幸子）



海を越えられるオンライン その1 【富山支部】

富山支部はZOOMを活用し、「ピアノピース・コレクション」の弾き合いを継続しています。先日の定例会ではギロック先生から安田先生に贈られた「終奏曲」の弾き合いをしました。

数人が各々の「終奏曲」を自由に弾いたあと、安田先生から教えていただいたエピソードを共有し、曲についての理解を深めました。エピソードのおかげで楽曲の美しさの味わいも深まり、分析の裏づけにもつながって、「終奏曲」がしっかり私達の心に残る名曲となりました。

その後、安田先生に私達の演奏動画をお送りし聴いていただきましたが、海を越えてこんなことが気軽に出来るのはオンラインならではのですね。

（記/高野浩美）



海を越えられるオンライン その2 【愛媛支部】

オンラインが普及したことで、たまたまオンラインでお話できた京都支部長とお話が進み、カナダの安田先生と京都支部（2名）と愛媛支部をオンラインでつないだスペシャル例会を10月に行うことができました。安田先生のお人柄や京都支部からの温かいご参加のおかげで、ギロックの音楽を通じて泣いたり笑ったり、かけがえのない大切なひとときを過ごすことができました。昨年は世界中が試練の年となりましたが、今年は良い方向へ向かう年になりますように。今年もどうぞよろしく願いいたします。

（記/鍵矢知佳）

インタビュー☆ アナ・ファーステンバーグさん (舞台演劇の作家 女優 英語教師)

幸運にも、私は隣の建物に住むアナ・ファーステンバーグを紹介されました。今はもう引退していますが、舞台演劇の作家、舞台監督、そして女優、またミュージカルの作家であり、シンガー、ダンサーの経歴もあります。コンコーディア大学では評判の良い英語教師でした。私はアナが英語の先生だったと聞いてすぐに、教えてもらえるようお願いしました。

皆さんは英会話とピアノのレッスンに共通点があると思いますか？私は初めてのレッスンで完全にノックアウトされてしまいました！

大袈裟に強調すること、 一音一音が大切

安田裕子（以下H）：アナの英語のレッスンを受けて、私はまるでピアノのレッスンを受けているように思いました。

アナ・ファーステンバーグさん（以下A）：特に英語は音楽的で旋律的です！まず話す時に声の調子を変えねばならないでしょ？

ほとんどの語学には、単数形、複数形、男性名詞、女性名詞などの決まりがありますが英語は違います。だから英語を話すときは何を伝えたいのかがよくわかるようにリズムに乗って抑揚をつけ、高い声から始まり山や谷を作ります。そして他の人とコミュニケーションをします。だからとても音楽的なのです。

H：アナのレッスンを受けて感じたのは、大切なことをとても「大袈裟に強調」して文を読んでくれるので、生徒は大きな印象を受け、よく理解できます。



A：ハハハ、覚えておいてちょうだい、私は演劇で演じるために声をトレーニングしたんですよ。だから怒鳴らなくても大きな声が出るんですよ！若い頃から「ママママ、ミミミミ、ムムムム、メメメメ」と口を動かす訓練をたくさんしましたよ。唇と舌の筋肉は特に大切ですね。

大学で、言語学を学んだ時にこの言葉はどこからきたのか詳しく学びました。英語は、ケルテック、ピクテック、アングロ、サクソン、フレンチ、グリーク、ラテンの7つからできています。そのために発音するのがとても不自然な言葉なのです。

H：そうなのですね。英文を読む時「is」の発音を、私はきちんと「イズ」と言っているつもりだったのですが、「sの音を飲み込まないで発音しなさい」と、毎回注意されました。特にアナの書いた詩を朗読する時は、「作者は全てに心を込めて書いているのだから、いい加減に扱わないで！」と注意された時は、心が痛くなりました。音楽も同じですよ。作曲家は全てに心を込めているのだから、それを音にするものは全てを大切に読み取らねばならないのと同じように。

A：「is」だけでなく、複数形の名詞の後につく「s」も同じですよ！英語は単数複数によって形を変えませんから、最後のsは、はっきり発音しないと単数が複数かわからないでしょ！

自信を持つこと

H：英語の歴史を聞くと、いかに発音が大切わかりました。カナダへ移住して、自分の使っている英語でコミュニケーションは取れたのですが、なぜか自信がなくて・・・ピアノを教えていても自分の教え方には確信があったのですが、シャキッとしなかったんです。でもアナのレッスンを受けはじめから、すぐには直せないのですが、英語で話す時、何が必要なのか学んだので、以前のようにおどおどしなくなりました。

A：フランス語を話す時、単複数に女性男性名詞があるから言葉の半分が消えても、言いたいことがわかります。でもそれが英語にはないから、はっきり発音しなければ正確に相手に伝えられないでしょう！だから明確に話さないと、他の人はあなたの話を聞かなくなるのですよ！自信を持って、はっきり話すことは大切です。

面白い話があります。私は英語のクラスに来る生徒の初めてのインタビューを録音して残しています。そして5～6週間後にそれを生徒に聞かせると「これ、本当に私ですか？」って聞くのです！

H：まさに音楽と同じだと思います。アナライズしてその音楽のことが少しでもよく理解できると、より自信を持って演奏できる。英語の練習をする時、

アナは英語の歌を歌いなさいと勧めてくれましたね？それはなぜですか？

A：はい、でも全ての歌ではないです。私がいいと思うのは基本的な発音とリズムでできている、フォークソングです。

H：複雑なリズムでできているポップス、ロックやジャズではないんですね？

A：違います。コールポーターやジャズではないのですよ！（笑）フォークソングは英語のリズムとアクセントの場所を教えてください。

H：最近の子供は耳コピで複雑な音楽を弾くことができます。でも底に流れている基本的なリズムが欠けていることが多いように思うのですが・・・

A：そうそう、よくわかります。だから基本的なリズムとアクセントを教えてください。フォークソングを歌うことが大切ですね。そして次の段階へ行くと流行の複雑な曲を歌ったりすることも可能ですよ。底に流れている基本が大切です。このリズムとアクセントをもにすると、聞き取りも簡単にできるようになるのです！

感情移入、感性と表現について

H：本当に音楽と同じなのですね。ところでギロックは音楽で人と人がコミュニケーションする事を教えてください。先生です。ともすれば「上手に弾きたい」と言う気持ちがどうしても先に立ってしまうのですが、演奏する時に大切なことは自分を表現することであり、その音楽が語りた物語を自分という人間を通して語りかけることが大切なのですね。

A：演劇でも全く同じです。私はグレン・グールドの「ゴールドベルグ変奏曲」を聴いた時、ショックを受けました。彼の全魂が音楽に入り込んで演奏しているのです。テクニックとか演

奏するための道具でなく、彼の魂に心を動かされたというのでしょうか。音楽を通して人と人のコネクションができるのは本当にすごい瞬間です。

私が12年間演劇スクールを開校し、教えていた時のことですが、生徒は単にセリフを読み上げるだけで、ひどい時には辞書を読んでいるような時もある。演劇作家からは、「うわべだけのセリフはやめないといけない」と、厳しく言われました。登場人物の感情やその瞬間の気持ちを、部分的にとらえていないのです。するとセリフを言ってもステージの端で止まってしまう、観客には感情やフィーリングが伝わらないのです。これはとても難しいことで、私もかつてはうまくできなかったのですが、その瞬間に自分が感じたことを全身で表現することが大切です。

H：感性についてですが、これは生まれ持って備わっているものでしょうか？それともトレーニングすることで作られるものだと思いますか？ピアノを教える時に、ここはどんな風景が浮かぶ？とか、どんな気持ちを表しているか？とかよく尋ねます。

A：感性は生まれ持ってはいないと思います。それと「トレーニング」という言葉がここで使うのに正しいかどうかわかりませんが。

まずこの社会では、自分の感情をあらわに表すことは良いこととされていないでしょう？日本では感情をうちに秘めると言われていますから特にそうなのではないですか？

感性というのは、まず自分の体全体で直接感じ、見るものです。心臓がドキドキしたり、手や足に鳥肌がたったり、背中を感じるとか全身です。そして、それを私は言葉ではなくて声と動きで表してみるのです。「ああああー」と泣いたり「いいいいー」とカ（りき）んだり、「ウォー」と怒鳴

ったり。あるいは飛び跳ねる、だらだらと足を引きずってあるく、動きで表します。

俳優たちを教育していた時のこと、彼らは、はじめ自分をさらけ出す事を拒むのです。何重にも仮面をかぶって、距離を保って接してきます。だから教師は生徒と真のコミュニケーションを取る事を学ばねばなりません。そして一枚一枚仮面を剥がして、生徒のうちに潜んでいる事を表現させるように導きます。これは繊細とか感性とは呼ばないでしょうね。生徒の感情（エモーション）に触れるとでもいうのでしょうか？そして、お互いに信頼しあって心が触れると表現へ導くことができるのですよ。

H：ああ～なるほど！やはり人と人の触れ合いなのですね！

A：あなたはこのインタビューで音楽のことと関連付けて話しているでしょう？音楽はコメディと似ているのですよ。ドラマじゃなくて。

コメディは、自然にリズムに乗って会話が進むタイミングが大切です。音楽も同じでしょう？間が伸びすぎても短すぎてもダメでしょう？一人一人の個性が出る。「ワン&ツー&スリー&パン！」生徒が底に流れているリズムを自分自身で捉えるまで繰り返し練習させます。「遅すぎ」「速すぎ」「粘りすぎ」と毎回注意して自分を聴くようにしむけます。

H：タイミング！ギロックも、間の取り方にはすごくこだわったミュージシャンでした。

アナは英語の教師、女優、シンガー、詩人、作曲家、作家、と色々な顔を持っておられますが、アーティストにとって最も大切なことは何だと思えますか？

A：いろいろありますが、一番大切なことは、自分が取り組もうとしている



プロジェクトを愛することです。

私は小さい間から演劇を学んで経験を積んできました。しかし舞台上演することはあまり好きではありませんでした。学生時代に演劇を演じなければならず、私は監督学を学んでいたのに演じるのは好きではなく、またその時取り上げられた題目も自分の好みではなかったのに、皆に演じるように言われたのですが、断りました。しかし私は演技がうまい優秀な生徒だったので、嫌々でしたが引き受けて舞台上立ちました。私はその役をどう演じたらいいかわかっていたし、顔の作り方、声の出し方、動き方など全て知っていたのでうまく演じました。誰も私が嫌々やっているとは思いませんでしたし、皆に注目されました。でもそれは自分の全身から湧き上がってくる舞台ではなく、嫌々やらされたことへの怒りだったのでしょう。

大学を卒業して、今度は自分の好きな題目を演じるきっかけがあり、再び舞台へ立ちました。自分が好きなプロジェクトだと、全身全霊で演じることができ自発的で創造的な上に、楽しくて全てうまくいくのです。だから、プロジェクトをするときは作品を愛することがとても大切だと私は信じています。



計画と準備、ポジティブ思考

H：よく似た質問ですが、教師にとって大切なことは何だと思えますか？

A：大学では教育学を専攻しました。そして演劇の学校を開き教えたこと、舞台監督、英語の教師などの経験から大切と思うことは、

1) 教えたい事を、全てバラバラにして小さなパートに分けます。そしてそれらで何を教えたいのかよく考えを練ります。だから各パートは効率的に教えたい事柄で詰まっています。それをプリントにして、生徒がクラスだけでは学べなかった事を家へ帰っておさらいをしたり、学ぶ事を楽しめるようにしました。そうすればお友達にシェアしてあげることもできるでしょう？
2) 生徒のことをよく知るように努めます。この子は飲み込みが早いけどあの子はゆっくり。発音をうまくできる子もいればうまくできない子もある。シャイな子もいれば自発的な子もある。生徒はそれぞれです。だから、その子の持っている可能性に合うように教えないといけません。誰にでも同じことをしては、各自の可能性をダメにしてしまうこともあります。生徒を洞察する力は大切です。

3) 計画をしっかり立てて準備をします。授業の3～4日前までにレッスンの計画を立てています。時間をかけてしっかりと計画を立てておくと、教えることが楽しく喜びに繋がります。その上、計画を立てておくと、教える側も大切なことに重きを置いて教えることができます。だから計画を立て準備をすることは欠かせないことです！

H：準備はとても大切な過程なのでですね！それと一人一人の個性に合わせた教授法！アナと出会って教えてもらったことは、いつもポジティブな気持ちで過ごすことです。その前向きな心持

ちはどこからやってくるのでしょうか？

A：私の両親と兄はユダヤ人の収容所（ホロキャスト）での生活を経験しました。そして私はシュタットガルトの難民収容所で生まれています。そのことを思うと、今、自分がここにいられることに感謝をせずにられません。

壁にかけられている絵や写真はどれも高価なものではありません。でも、友人から譲り受けたものもあり、それぞれには思い出があります。ここで一番高価なものといえば、私が舞台上に立っている時、カナダの有名な画家が来て私のポートレートをかいてくれたものです。とても光栄なことです。

それぞれの絵を見て思い出したり、美しい空を見て感激したり、季節折々の風景に喜びを感じられる、私はこの部屋が大好きです。何も高価なものはいらないのです。人と出会い、人と人の心のつながりと自分が持っているものに感謝して楽しむことが大切です。だから私はいつも前向きでいられます。

H：最後にギロックの音楽をどのように思われますか？

A：私の父はオペラが好きで小さい頃から聴いていました。そのせいもあって私は大きな重厚な音楽が好きです。だからギロックの音楽は取り立てて聴こうとは思わないジャンルです。でもギロックを聴いたときは、映画音楽のようだと思いました。

私がまた映画の台本を書くとしたら、監督にこの場面ではこれが良いから使うようにとか、ぜひ勧めたい音楽ですね！とても映画的だと思います。

H：私は、今、自分が持っているものに感謝をして生きていこうと思いました。アナ、貴重なお話を聞かせてくださってありがとうございました。

MASA先生とHillockのチャットdeギロック！第6回



～「サマータイム・ブルース」～



Hillockこと安田裕子（以下H）：今回は「はじめてのギロック」より「サマータイム・ブルース」を取り上げてみようと思いました。私はほとんどの生徒にとってもよいほど、レッスンで使います。私自身、ブルースが大好きなのです。それがこの初級レベルで、ブルースのフィーリングを感じさせてくれるのですから、ギロックってほんますごい！



MASAこと松田昌（以下M）：ポピュラー音楽の源流の一つがブルースだと思います。ジャズだけにとどまらず、ラヴェル（ピアノコンチェルト）、そしてビートルズから「ゲゲゲの鬼太郎」、AKBに至るまで、大きな影響を与えています。音楽を勉強する人は、一度はブルースの勉強をすることが必要だと思います。



H：「サマータイム・ブルース」はIとIVとVの基本3和音だけなのですが、よくできていると思います。この曲を弾くと3和音の機能が良く感じられます。



M：おっしゃる通りですね！トニック・ドミナント・サブドミナントの3つの機能を実に音楽として有効に使っているのがブルースだと思います。僕は大学の講義で学生に、ブルースを次のように説明します。トニック（T）は調の中心だから「自宅」。ドミナント（D）はトニックに進むから、「学校」に行って家に帰るようなもの。サブドミナント（S）は、トニックでもドミナントでもない色彩だから「彼氏」にしよう！そして、「TTTT、SSTT、DSTT」という12小節のブルースは、4小節ずつ貴方たちの朝・昼・晩の生活みたいなもの！最初のトニックの4小節は午前中「自宅」（T）で練習！次の4小節は午後、「彼氏」（S）の家に遊びに行ってから「自宅」に帰る。最後の4小節の夜は、「学校」（D）に行ってまた「彼氏」（S）の家に寄って最後は「自宅」（T）に帰って、1日が終わる。12小節をこのように、ストーリーとして説明すると、とてもよく理解してくれます。



H：曲のはじめに「ゆっくりとしたブルースのリズムにのって」とあります。子どもたちにブルースの説明をする時に、昔、黒人の奴隷たちが毎日の辛い苦しい気持ちを音楽で表現した歴史に触れます。



M：僕のエレクトーンの師匠である沖浩一先生は、
I-I-I-I-I 鎖に繋がれて、今日も仕事は、辛かったな～！
IV-IV-I-I-I こんな人生のどんな意味がある？苦しみばかりだな～！
V-IV-I-I-I でも死んだら、神様は天国に入れてくれるよな～！と説明してくださいました。

9～10小節のV-IVのIVの1拍目でブレイクして、自分の本音を吐露する方法がブルースにはありますね？大阪の女性ヴォーカルの方が作った「すんまへんブルース」というのがあって、亡くなった佐山雅弘さんがライブの後の飲み会でよく歌っていました。「すんまへん・あんなが好きならば、18歳やいうてウソついてましてん・・・。ワテホンマは・・・（V-IVでブレイク）・・・48だんねん！」（笑）

話は違いますが、アフリカのケニア、ンゴロンゴロ自然保護区に行った時、ガイドがとても面白い話をしてくれました。「マサさん！ンゴロンゴロという言葉の意味知ってますか？マサイ族が放牧している牛の首につけたカウベルの音をンゴロンゴロと聞いたことからその名前が付いたのです！」これは僕にはとても面白い話でした。「ンゴロンゴロ」って3連符、しかも日本人だったら「カランコロン」と「K」の部分、つまりアタマにアクセントを感じて聞く音を、「ンゴロンゴロ」と「G」の部分、3連符の2つ目にアクセントを感じています。アフリカ人のリズム感を理解する上でとても示唆に富んだ話です。



H：面白いですね！！！！「ンゴロンゴロ」か～。ところで「サマータイム・ブルース」では4分音符のスタッカートは短く切って弾くと、感じが出ないんですが、マサさんはどのような感じで演奏しますか？



M：生徒に説明するとき、理論的・数学的に説明することがあります。ジャズのノリをうまく出すためには、音の出始めのタイミングだけでなく、音が消える時のタイミングが大切なんだよ！ジャズの4分音符には3連符が内在していると考え、3連符の長さを意識して鍵盤から指を離しましょう！スタッカートが付いた4分音符は、3連符1つ分の長さ。つまり1拍の3分の1のところではパッと鍵盤から指を離す（切りすぎないように！）。スタッカートとテヌート

の付いた4分音符は、3連符2つ分の長さ。つまり1拍の3分の2のところではスバツと鍵盤から指を離す。レガートな4分音符は、丸々1拍の長さ。「あんまり考えすぎるとかえって弾きにくい！」とも言われますが・・・笑。このことを感覚的に捉えて弾くといいね！と言います。



H: 右手を鍵盤ハーモニカで吹いてみました。そうすると、ピアノでは聴こえにくかったダブル音、シとソのシの音がとてもよく聴こえてきました。ということはピアノで弾く時もこのシの音を大切に弾くこともできるなと思いました。それに付点二分音符がピアノでは減衰しますが、鍵盤ハーモニカでは長さも強さもコントロールできるのですね。「おもしろい！」と思いました。



M: ブルースハーブというハーモニカがあるように、鍵盤ハーモニカは音色的にブルースにはぴったりですね！そしてブルースを鍵盤楽器で弾く時、メロディーの音にトニックやドミナントの音を同時に鳴らして2音にするという奏法をよく使います。つまりこの「シソ」は「シ」がメロディーの音で、「ソ」は付け足しですから、安田先生がおっしゃる「シ」の音を大切に弾く！というのは本当に理にかなっています。さらに「シ」の前にブルース・スケールの特徴音の一つでもある「#ラ」を装飾音として付けると、さらにブルース・フィーリングが出せると思います。

僕は子どもの指導をしたことがほとんどないですから、子どものリズムはあまりよくわかりませんが、4小節が一つのサイクル、その中には4拍の長さを持つ1小節が4つあって、そのそれぞれの1拍には3連符が内在している。ちょっと理屈っぽいですが、そのことを無意識に意識できるようになるといいのですね。



<セオリーオールザウェイ小冊子販売中>

各種テキストをレッスンで使っている先生にも、併用ドリルとして使えると思いますので、ご興味のある方は枚方支部の杉野までお問合せください。(1冊1000円)

